



立川キャラバン隊「ひこうき雲」公演報告

理解啓発委員会 委員長 M.N

知的・発達障がいの特性を知ってもらふ種まき活動の機会をいただきましたこと、紙面を通して関係者の皆さまに感謝申し上げます。ご参加いただいた皆さまも、心よりありがとうございました。

★11月15日 新生小学校4年生対象公演

2クラス65名の子どもたちが、障害特性の疑似体験を通して、生きづらさや不便なこと、つらい気持ち、こんなふうに接してくれるとうれしい……などという思いを素直に感じてくれました。後日、子どもたちからの感想文を先生が送って下さいましたので、紹介させていただきます。

*私は、ピカチュウ王国の(言葉がわからない)で、すごく言葉がわからないと不便なんだなあと思いました。2回目は(ペットボトル眼鏡体験)「そこにいるよ!」と思うのに、みんなキョロキョロしているので、大変そうでした。みんなと違う見え方はずらいなと思いました。3回目は(手先が不自由の体験)軍手をすると私は手が小さいので、すごく余ってしまい折り紙を取る時だけで苦労しました。私はとちゅうまでしかできないので、すごくいやになりました。もししょうがいだったら、自分だけしょうがいになっていて、もしかしたら部屋に閉じこもったかもしれません。それくらいいやな気持ちになるんだと思いました。やさしくゆっくり話せば、相手もわかってくれるから、こっちもうれしくなるので、とても大事ななと思いました。今日のことをいかして次に使おうと思います。今日はいい経験になりました。ありがとうございました。

★12月5日 立川市障害者週間公演

障害者週間では、3回目となる公演で、今回は、私たちの子どもの経験談を事例にし、参加者とのワークショップを試みました。「このような時には、あなたならどうしますか?」の問いかけに、グループごとに様々な意見が出されました。対応の仕方に、正解があるわけではありませんが、当事者や家族は、地域や社会に、温かい目があるだけで、とても救われます。

